

自己点検書

(2. 自己点検結果編)

芝浦工業大学 工学部 電気工学科

認定継続審査
(電気・電子及び関連の工学分野)

Electrical Engineering

審査分類：認定継続審査

記入上の注意

- ・ 白色のセルにのみ記入してください。着色及び網かけのあるセルには記入しないでください。
 - ・ 「自己判定結果」欄に、プログラム側の視点で自己判定結果を記入してください。
自己判定の指標は下記のとおりです。
 - ◎：認定基準の要求事項を満たし、さらにそれを上回る取り組みを行っている
 - ：認定基準の要求事項を満たしている
 - △：認定基準の要求事項を概ね満たしているが、改善の余地がある
 - ・ 「基準への適合状況の説明」欄に説明を簡潔に記入してください（多くても200文字程度）。
 - ・ 「前回受審時からの改善・変更」欄には、下記の説明を記入してください（多くても200文字程度）。なお、新規審査の場合は記入不要です。
 - (1) 前回受審時の「W：弱点」に対する対応
 - (2) 前回受審時の「C：懸念」に対する対応
 - (3) その他の前回受審時からの改善、変更
 - ・ 「根拠資料」欄には、根拠となる資料の名称と所在を記入してください。
添付資料、実地審査閲覧資料には整理番号を付し、該当する資料の整理番号を「根拠資料」欄に記入してください。
インターネット上でアクセスできるものについてはURLを記入してください。その場合でも、負担にならない範囲で自己点検書の添付資料に含めてください。
-

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1	基準1 学習・教育到達目標の設定と公開				
1(1)	プログラムが育成しようとする自立した技術者像が定められていること。この技術者像は、プログラムの伝統、資源及び修了生の活躍分野等が考慮されたものであり、社会の要求や学生の要望にも配慮されたものであること。さらに、その技術者像が広く学内外に公開され、また、当該プログラムに関わる教員および学生に周知されていること。				
1(1)[1]	プログラムが育成しようとする自立した技術者像が定められていますか？	○	電気工学科「ディプロマポリシー」ならびに工学部「ディプロマポリシー」に記載されている。		【T01】電気工学科ガイドブック2014年度版 pp. 36-37 芝浦工業大学工学部電気工学科ホームページ http://www.ee.shibaura-it.ac.jp/
1(1)[2]	上記の技術者像は、プログラムの伝統、資源及び修了生の活躍分野等が考慮されたものですか？	○	本学創設以来長年培われた伝統、教職員組織、校友会を基盤として、毎年100名前後の卒業生を輩出している。活躍分野は全産業、公務員など多岐に渡っている。		【T02】就職先一覧 【T03】求人アンケート
1(1)[3]	上記の技術者像は、社会の要求や学生の要望にも配慮されたものですか？	○	卒業生に対する求人倍率は、例年5倍前後であり就職率も95%前後の高い数値を誇っている。また、求人アンケートによる社会の要求のフィードバックとともに、学生アンケートや校友会、ホームカミングデーなど卒業生からのフィードバックもなされている。		【T02】就職先一覧 【T03】求人アンケート 【T04】教育評価アンケート 【T05】ホームカミングデー案内
1(1)[4]	上記の技術者像は、広く学内外に公開されていますか？	○	根拠資料に示す各種配布物や大学ホームページで公開されている。		【T01】電気工学科ガイドブック2014年度版 pp. 36-37 芝浦工業大学工学部電気工学科ホームページ http://www.ee.shibaura-it.ac.jp/
1(1)[5]	上記の技術者像は、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていますか？	○	根拠資料に示す各種配布物や大学ホームページで公開されている。		【T01】電気工学科ガイドブック2014年度版 pp. 36-37 芝浦工業大学工学部電気工学科ホームページ http://www.ee.shibaura-it.ac.jp/
1(2)	プログラムが育成しようとする自立した技術者像に照らして、プログラム修了時点の修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標が設定されていること。この学習・教育到達目標は、下記の(a)～(i)の各内容を具体化したものであり、かつ、その水準も含めて設定されていること。さらに、この学習・教育到達目標が広く学内外に公開され、また、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていること。なお、学習・教育到達目標を設定する際には、(a)～(i)に関して個別基準に定める事項が考慮されていること。				
1(2)[1]	プログラムが育成しようとする自立した技術者像に照らして、プログラム修了時点の修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標が設定されていますか？	○	2011年度入学生用 学習・教育目標 2012年度入学生用 学習・教育目標 2013年度入学生用 学習・教育目標 2014年度入学生用 学習・教育到達目標 が設定され、毎年見直しを実施されている。		【T06】電気工学科ガイドブック2014年度版 pp. 72, pp. 60, pp. 47, pp. 37 芝浦工業大学工学部電気工学科ホームページ http://www.ee.shibaura-it.ac.jp/
1(2)[2]	学習・教育到達目標は、下記の(a)～(i)の各内容を具体化したものですか？				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1(2)[2](a)	地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養	○	多様な視点から種々の文化および社会の発展の歴史を学び、多面的にものごとを捉える能力。 A1 種々の文化および社会の発展の歴史を学ぶことにより、その内容を説明できる。 A2 エネルギーならびにその関連技術が、社会および地球環境に及ぼす影響と効果を理解し説明できる。 A3 心と身体の健康を管理できる。	JABEE新基準に合わせて、学習・教育到達目標を設定し、2014年度入学生用から適用 本年度4月、新基準対象者（新入生）117名が入学。 2013年度以前の入学生に対しては、旧基準を適用。	【T07】電気工学科ガイドブック2014年度版 p.37 表1
1(2)[2](b)	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解	○	技術における倫理的責任の認識と実践のため、技術者の行動規範となる倫理要綱を理解し説明できる能力。また工学の実践の場において、技術者として倫理観に基づき価値判断する能力。	JABEE新基準に合わせて、学習・教育到達目標を設定し、2014年度入学生用から適用 本年度4月、新基準対象者（新入生）117名が入学。 2013年度以前の入学生に対しては、旧基準を適用。	【T07】電気工学科ガイドブック2014年度版 p.37 表1
1(2)[2](c)	数学及び自然科学に関する知識とそれらを活用する能力	○	数学、自然科学、情報利用技術を問題解決のための言語・道具として使いこなす能力。 C1 自然科学全般の基礎的な考え方を理解し、技術の基盤となる自然科学の原理を説明できる。 C2 数理法則と物理原理など工学の基礎理論を理解し、適切に利用できる。 C3 情報処理環境を活用し、問題を解決できる。	JABEE新基準に合わせて、学習・教育到達目標を設定し、2014年度入学生用から適用 本年度4月、新基準対象者（新入生）117名が入学。 2013年度以前の入学生に対しては、旧基準を適用。	【T07】電気工学科ガイドブック2014年度版 p.37 表1
1(2)[2](d)	当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを活用する能力	○	電気工学ならびに関連する工学の技術分野を課題に適用し、社会の要求を解決するための応用力。 D1 電気工学の専門分野における基礎科目を学び、電気現象ならびに電気エネルギーの特徴を説明できる。 D2 与えられた課題に対し効率的に実験を計画および遂行し、正しくデータを取得・解析する力を身に付け、得られたデータを理解しやすい形式で表現できる。 D3 ハードウェアとソフトウェアを包含する複雑な電気・電子デバイス、システムの解析と設計に必要な知識を駆使することにより、与えられた課題を解決できる。	JABEE新基準に合わせて、学習・教育到達目標を設定し、2014年度入学生用から適用 本年度4月、新基準対象者（新入生）117名が入学。 2013年度以前の入学生に対しては、旧基準を適用。	【T07】電気工学科ガイドブック2014年度版 p.37 表1
1(2)[2](e)	種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力	○	社会のニーズを捉え、技術的課題を自ら設定し、デザイン能力を活かして設計、解析、製作、評価し、課題を解決する能力。	JABEE新基準に合わせて、学習・教育到達目標を設定し、2014年度入学生用から適用 本年度4月、新基準対象者（新入生）117名が入学。 2013年度以前の入学生に対しては、旧基準を適用。	【T07】電気工学科ガイドブック2014年度版 p.37 表1
1(2)[2](f)	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力	○	グローバルな社会に通用するコミュニケーション能力。 F1 技術資料や報告書を論理的に記述し、根拠を示しながら効果的に発表や討論ができる。 F2 国際コミュニケーションの基礎となる英語などで書かれた技術文書を理解し作成できる。	JABEE新基準に合わせて、学習・教育到達目標を設定し、2014年度入学生用から適用 本年度4月、新基準対象者（新入生）117名が入学。 2013年度以前の入学生に対しては、旧基準を適用。	【T07】電気工学科ガイドブック2014年度版 p.37 表1
1(2)[2](g)	自主的、継続的に学習する能力	○	継続的に学習することにより、課題を自主的に選択し自らの探求心を高めることができる能力。	JABEE新基準に合わせて、学習・教育到達目標を設定し、2014年度入学生用から適用 本年度4月、新基準対象者（新入生）117名が入学。 2013年度以前の入学生に対しては、旧基準を適用。	【T07】電気工学科ガイドブック2014年度版 p.37 表1
1(2)[2](h)	与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力	○	与えられた制約の下で課題の内容を正しく理解し、計画の立案ならびに計画に基づいて仕事をするとともに、結果を正しくまとめることができる能力。	JABEE新基準に合わせて、学習・教育到達目標を設定し、2014年度入学生用から適用 本年度4月、新基準対象者（新入生）117名が入学。 2013年度以前の入学生に対しては、旧基準を適用。	【T07】電気工学科ガイドブック2014年度版 p.37 表1
1(2)[2](i)	チームで仕事をするための能力	○	チームの中での役割を正しく認識し、お互いの意思疎通を図りながら円滑に仕事をする能力。また、振り返り場面での気づきや自己認識ができる能力。	JABEE新基準に合わせて、学習・教育到達目標を設定し、2014年度入学生用から適用 本年度4月、新基準対象者（新入生）117名が入学。 2013年度以前の入学生に対しては、旧基準を適用。	【T07】電気工学科ガイドブック2014年度版 p.37 表1
1(2)[3]	学習・教育到達目標は、水準も含めて設定されていますか？	○	電気工学科におけるカリキュラム設計、教育研究実績、修了判定、社会の要望、卒業生の活躍分野などPDCAに基づき適切な水準になっている。	JABEE新基準に合わせて、学習・教育到達目標を設定し、2014年度入学生用から適用 本年度4月、新基準対象者（新入生）117名が入学。	【T07】電気工学科ガイドブック2014年度版 p.37 表1

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1(2)[4]	学習・教育到達目標は、広く学内外に公開されていますか？	○	入試要項、各種配布物、ホームページなどで公開している。	JABEE新基準に合わせて、学習・教育到達目標を設定し、2014年度入学生用から適用 本年度4月、新基準対象者（新入生）117名が入学。	【J01】電気工学科ガイドブック 【J02】入試要項 ホームページ http://www.ee.shibaura-it.ac.jp/hpb2004/jabee_main/index.html
1(2)[5]	学習・教育到達目標は、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていますか？	○	学年別ガイダンス、各種配布物、ホームページなどで公開している。	JABEE新基準に合わせて、学習・教育到達目標を設定し、2014年度入学生用から適用 本年度4月、新基準対象者（新入生）117名が入学。	【T07】電気工学科ガイドブック2014年度版 p.37 表1

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2	基準2 教育手段				
2.1	2.1 教育課程の設計				
2.1(1)	学生がプログラムの学習・教育到達目標を達成できるように、教育課程（カリキュラム）が設計され、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。また、カリキュラムでは、各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係が明確に示されていること。なお、標準修了年限及び教育内容については、個別基準に定める事項を満たすこと。				
2.1(1)[1]	学生がプログラムの学習・教育到達目標を達成できるように、教育課程（カリキュラム）が設計されていますか？	○	「表4 学習・教育到達目標の流れ」の作成において、適切な開講時期の検討を行い、学生が4年間の標準年限において教育課程を修了するように設定している。	2014年度からの学習・教育到達目標変更に伴い、科目配置等見直しを行った。また、グローバル人材育成推進事業の内容を、関連するカリキュラムに反映させた。	【添付資料編】表4
2.1(1)[2]	カリキュラムが当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？	○	カリキュラムは「学修の手引」として新入生に配布している。またweb版も公開している。同様の内容は「電気工学科ガイドブック」にも記載して当該プログラムに係わる教員及び学生に開示している。 ※学修の手引、電気工学科ガイドブックともに、2014年度ウェブ版の公開を完了。	特になし。	【J03】学修の手引 同 web版： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/preliminary/kol/kol_2014.pdf 【J01】電気工学科ガイドブック 同 web版： http://www.ee.shibaura-it.ac.jp/guidance/index.html
2.1(1)[3]	カリキュラムでは、各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係が明確に示されていますか？	○	上記、「学修の手引」と「電気工学科ガイドブック」において、各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係を明示している。	特になし。	【J03】学修の手引 同 web版： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/preliminary/kol/kol_2014.pdf 【J01】電気工学科ガイドブック 同 web版： http://www.ee.shibaura-it.ac.jp/guidance/index.html
2.1(1)[4]	標準修了年限及び教育内容については、個別基準に定める事項を満たしていますか？	○	本プログラムは4年間で標準修了年限としており、個別基準の4年間を満たしている。また、自然科学および科学技術に関する内容が全体の60%以上必要であるが、本プログラムでは77%(必要単位数124単位中の95単位が該当)である。また、分野別要件にて求められる、専門知識および実験に関する要件2つを満たすように「表1 学習・教育到達目標」を作成している。	特になし。	【添付資料編】表1
2.1(2)	カリキュラムの設計に基づいて、科目の授業計画書（シラバス）が作成され、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。シラバスでは、それぞれの科目ごとに、カリキュラム中での位置付けが明らかにされ、その科目の教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準が示されていること。また、シラバスあるいはその関連文書によって、授業時間が示されていること。				
2.1(2)[1]	カリキュラムの設計に基づいて、科目の授業計画書（シラバス）が作成されていますか？	○	「表1 学習・教育到達目標」に基づきカリキュラム編成を行い、「表4 学習・教育到達目標の流れ」にて対応する授業を設定している。これに基づきシラバスが作成されている。	特になし。	【添付資料編】表1 【添付資料編】表4 web版シラバス： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/syllabus/2014/?bu=ko
2.1(2)[2]	シラバスが当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？	○	シラバスはweb版として学外を含めて公開されている。	特になし。	web版シラバス： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/syllabus/2014/?bu=ko
2.1(2)[3]	シラバスでは、それぞれの科目ごとに、カリキュラム中での位置付けが明らかにされ、その科目の教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準が示されていますか？	○	それぞれの科目の、カリキュラム中での位置付け、教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準、すべてをweb版シラバスに記載している。ただし、「カリキュラム中での位置付け」という記載項目があるわけではなく、記載が不明確なシラバスもある。	特になし。	web版シラバス： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/syllabus/2014/?bu=ko

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.1(2)[4]	シラバスあるいはその関連文書によって、授業時間が示されていますか？	○	授業時間は90分15回と定め、「学修の手引」に記載している。またこれに基づき時間割の編成を行い、「授業時間割表」に掲載している。	特になし。	【J03】学修の手引 同 web版： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/preliminary/kol/kol_2014.pdf 【J04】授業時間割表 同 web版： http://timetable.sic.shibaura-it.ac.jp/
2.2	2.2 学習・教育の実施				
2.2(1)	シラバスに基づいて教育が行われていること。				
2.2(1)[1]	シラバスに基づいて教育が行われていますか？	○	非常勤を含めた全教員に対しシラバスの入力と実施を促し、3月中旬までにはシラバス委員会を中心に次年度のシラバスのチェックを実施している。学生による授業アンケートでチェックを受ける。またS☆gsotの授業ページにおいて、実施の記録が表示・公開されている。休講等により授業実施回数が不足する場合には、学生課から担当教員に対して補講実施の要請がなされる。	特になし。	【T08】シラバス委員会実施マニュアル 【T09】授業アンケート 芝浦工業大学S☆gsot 芝浦学生応援ツールS☆gsot(要ユーザ名) http://sgsot.sic.shibaura-it.ac.jp/
2.2(2)	学生の主体的な学習を促し、十分な自己学習時間を確保するための取り組みが行われていること。				
2.2(2)[1]	学生の主体的な学習を促し、十分な自己学習時間を確保するための取り組みが行われていますか？	○	原則的に半期24単位の履修として無理な履修をさせず、自己学習時間を確保するように努めている。また、各科目のシラバスには授業時間外課題が示されており、また導入科目である「電気工学入門」において、自ら調査、検討するテーマを設定することにより受け身から自主的な学習姿勢へとスムーズな移行ができるよう、半期をかけて教育を行っている	特になし。	【J03】学修の手引 電気工学入門シラバス http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/syllabus/2014/kol/84470.html?E00
2.2(3)	学生自身にもプログラムの学習・教育到達目標に対する自分自身の達成状況を継続的に点検させ、それを学習に反映させていること。				
2.2(3)[1]	学生自身にもプログラムの学習・教育到達目標に対する自分自身の達成状況を継続的に点検させていますか？	○	4年間で学習・教育到達目標を達成できるようカリキュラムを設計しており、取得単位状況で全体の達成度を把握する。成績不振者に対しては各担当クラス担任が面談を行い学習・履修指導を行っている。現在、S☆gsotのシステムから、通常の成績とは別に作成した学習・教育到達目標の達成度（JABEE達成表）を確認でき、また、通常の成績とJABEE達成表を合わせた成績表を準備している。	2014年度入学生からJABEEコースに一本化したため、現1年生は、S☆gsotのシステムから確認する学習・教育到達目標の達成表（JABEE達成表）に基づき、自分自身の達成状況を点検することとしている。	【J03】学修の手引（2011年度以降） 【T10】基底科目成績不振者面談報告書 【T11】警告対象者面談報告書 【J05】JABEEへの取り組み 【T12】JABEE達成表
2.2(3)[2]	自分自身の達成状況の継続的な点検を学習に反映させていますか？	○	カリキュラム設計において、3年次への進級停止条件、4年次の卒業研究着手条件、および卒業要件により、2年後期、3年後期、および4年後期に単位取得状況を点検し、学習に反映させるようにしている。また、各学期初めの学科ガイダンスの時にJABEE達成表をもとにクラス担任が単位取得状況を学生自身にチェックさせ、その後の学習計画に反映させている。	特になし。	【J03】学修の手引（2011年度以降） 【T10】基底科目成績不振者面談報告書 【T11】警告対象者面談報告書 【J05】JABEEへの取り組み 【T12】JABEE達成表

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.3	2.3 教育組織				
2.3(1)	カリキュラムを適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげる能力をもった十分な数の教員と教育支援体制が存在していること？				
2.3(1)[1]	カリキュラムを適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげる能力をもった十分な数の教員と教育支援体制が存在していますか？	○	専任教員は、教授10名、准教授1名、講師1名から構成され、全員が博士の学位を有し、内10名が○合の資格を有している。さらに、技術士1名、一級電気工事施工管理技士1名、第一種電気主任技術者1名も含み、産業界経験者は5名であり、本コースの学習教育目標を実現できる十分資質ある教員から構成されている。教育支援体制として、クラス担任制度、TA制度、学修アドバイザー、国際交流課、工学部学習サポート室などがある。	教員の昇格により、専任教員12名中10名が教授となり、教育の質向上が図られた。	【T13】 教員一覧 【J01】 電気工学科ガイドブック 【J06】 芝浦工業大学教員プロフィール2014年度版 芝浦工業大学電気工学科ホームページ http://www.ee.shibaura-it.ac.jp/ 芝浦工業大学教員データベース http://resea.shibaura-it.ac.jp/
2.3(2)	カリキュラムに設定された科目間の連携を密にし、教育効果を上げ、改善するための教員間連絡ネットワーク組織があり、それに基づく活動が行われていること。				
2.3(2)[1]	カリキュラムに設定された科目間の連携を密にし、教育効果を上げ、改善するための教員間連絡ネットワーク組織がありますか？	○	学科外ネットワーク組織として、工学部教授会、工学部主任会議工学部JABEE推進委員会、大学院理工学研究科委員会、電気電子情報工学専攻科会議、ハイブリッドツイニングプログラム、教育開発本部、電気電子学群会議などがある。これらで決定された事項を実行に移す学科内組織として、学科会議、JABEE委員会、カリキュラム委員会、電気実験運営委員会、電気回路などの主要科目担当者や共通学群との意見交換会がある。	継続して学科内教員ネットワークを稼働させており、変更なし。	【T14】 教授会議事録 【T15】 学群・学科主任、科目代表者会議議事録 【T16】 工学部JABEE推進委員会議事録 【T17】 大学院理工学研究科委員会 【T18】 大学院電気電子情報系専攻科会議議事録 【T19】 ハイブリッドツイニングプログラム 教育開発本部HP: http://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/educational_system_dev/affairs.html 【T20】 電気電子学群会議議事録 【T21】 電気工科学科会議議事録 【T22】 電気工学科JABEE会議議事録 【T23】 電気工学科教育プログラム実施委員会内規 【T24】 電気工学科FD・設備委員会内規 【T25】 電気工学科カリキュラム委員会内規 【T26】 電気工学科シラバス委員会内規 【T27】 電気工学科カリキュラム委員会議事録 【T28】 電気工学科FD・設備委員会議事録 【T29】 共通系教員とのネットワーク議事録等 【T13】 教員一覧

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.3(2)[2]	上記の教員間連絡ネットワーク組織に基づく活動が行われていますか？	○	工学部教授会、工学部主任会議は、年間11回の部門会議を開催しており、工学部JABEE推進委員会、教育開発本部委員会、学院理工学研究科委員会、電気電子情報工学専攻科会議は年6回程度、電気電子学群会議は年間2回開催されている。学科内組織では、学科会議、JABEE委員会、カリキュラム委員会は年間11回、各委員会は年5回程度以上、電気回路などの主要科目担当者による意見交換会や共通学群との意見交換会は不定期に必要なに応じて開催されている。いずれも議事録が作成開示されている。	変更なし。	【T14】 教授会議事録 【T15】 学群・学科主任、科目代表者会議議事録 【T16】 工学部JABEE推進委員会議事録 【T17】 大学院理工学研究科委員会 【T18】 大学院電気電子情報系専攻科会議議事録 【T19】 ハイブリッドツイニングプログラム 【T20】 電気電子学群会議議事録 【T21】 電気工学科JABEE会議議事録 【T22】 電気工科学科会議議事録 【T23】 電気工学科教育プログラム実施委員会内規 【T24】 電気工学科FD・設備委員会内規 【T25】 電気工学科カリキュラム委員会内規 【T26】 電気工学科シラバス委員会内規 【T27】 電気工学科カリキュラム委員会議事録 【T28】 電気工学科FD・設備委員会議事録 【T29】 共通系教員とのネットワーク議事録等 【T13】 教員一覧 【J07】 電気工学科教員用サーバー 教育開発本部HP: http://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/educational_system_dev/affairs.html
2.3(3)	教員の質的向上を図る取り組み（ファカルティ・ディベロップメント）を推進する仕組みがあり、当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに従った活動が行われていること。				
2.3(3)[1]	教員の質的向上を図る取り組み（ファカルティ・ディベロップメント）を推進する仕組みがありますか？	◎	大学全体として、教育開発本部の中に、工学教育の水準向上と教育全般の継続的な改善を支援する方法を研究開発する「工学教育プログラム・教育システム研究開発部門」および企画・運営を行う「企画運営部門」が常設されている。さらに、「全学FD・SD改革推進委員会」や新設の「教育イノベーションセンターInstitutional Research部門」も設置されている。学科内では、上記委員会の活動を受けて活動するFD・設備委員会が存在する。また、2013年度から最大5年間、文部科学省のグローバル人材育成推進事業（タイプB：特色型）に採択され、教員の総合的なグローバル教育力の向上の取り組みも行われている。さらに、2013年秋には文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業」に採択され、大学の核となる人的資産の多様性確保に向け活動している。	「教育の質保障と教学IR体制の整備を推進する教育イノベーションセンターIR部門」が継続的に活動している。グローバル人材育成推進事業により教員のグローバル教育力の向上を推進しており、新しく設置された男女共同参画推進室も積極的に活動している。	教育開発本部HP: http://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/educational_system_dev/affairs.html 【T30】 FD講演会開催記録 【T31】 2013年度 年間活動スケジュール 教育イノベーション推進センター NEWS LETTER 2014年5月1日【第2号】 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/pdf/eic_news_letter_02.pdf 芝浦工業大学 グローバル人材育成推進事業 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/support_program/program18.html 男女共同参画推進室HP http://plus.shibaura-it.ac.jp/diversity/ 【T32】 教育プログラム実施委員会による電気実験運営会議議事録

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.3(3)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？	○	教育開発本部の規程は全て教授会の審議を経た上で承認・制定され学校法人芝浦工業大学規定集に収められてる、各部門構成は芝浦工業大学ホームページで公開されている。「教育イノベーションセンターIR部門」、「芝浦工業大学 グローバル人材育成推進事業」や「女性研究者研究活動支援事業」の活動は、「チャレンジSIT-90」作戦の報告書や男女共同参画推進室のHPなどで公開されている。学科のFD・設備委員会は内規に詳細な運営が定められ、適宜、見直しがされて学科会議等で配布され、学科サーバーによっても全教員に開示されている。	開示方法については変更なし。	教育開発本部HP: http://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/educational_system_dev/affairs.html 芝浦工業大学 グローバル人材育成推進事業 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/support_program/program18.html 男女共同参画推進室HP http://plus.shibaura-it.ac.jp/diversity/ 【T28】電気工学科FD・設備委員会議事録 【T33】FD講演会開催通知
2.3(3)[3]	上記の仕組みに従った活動が行われていますか？	○	年度初めに全学FD・SD改革推進委員会による学内外講師を招いてFD講演会を開催し、優秀な教育成果を納めた教員の表彰も行っている。また、2008年4月よりスタートした「チャレンジSIT-90」作戦により、7つの挑戦に沿って各教学機関が改革項目を立て、PDCAサイクルを展開していく自律的の大学改革運動を実施している。特に、新設の「男女共同参画推進室」は、男女共同参画推進シンポジウムを開催するなど、大学の核となる人的資産の多様性確保に向け活発に活動を行っている。	新設の「男女共同参画推進室」を中心に、大学の核となる人的資産の多様性確保を積極的に推進している。	【T30】FD講演会開催記録 【T34】チャレンジSIT-90作戦パンフレット 2013年度 男女共同参画推進シンポジウム http://www.shibaura-it.ac.jp/news/detail_j/id/3341/ 【T32】教育プログラム実施委員会による電気実験運営会議議事録
2.3(4)	教員の教育活動を評価する仕組みがあり、当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それによって教育改善に資する活動が行われていること。				
2.3(4)[1]	教員の教育活動を評価する仕組みがありますか？	○	教育・研究等業績評価（自己評価方式）を実施している。その目的は、教員各自が、自身の諸活動について目標と達成度を明確にし、不撓の改善へとつなげることである。評価項目の筆頭には教育活動が掲げられ、学士課程教育への貢献、学生支援活動等が評価される。評価方法は、年度当初に、個人の達成目標と活動計画を『目標計画書』に記述し、貢献比率を自身の計画に基づき設定し、学部長を経由して学長に提出される。また、教員資格の再審査制度を制定し、教員が着任もしくは昇格してから5年ごとに教育・研究等業績の再評価を行い、その結果を本人にフィードバックすることで教員の質を継続的に改善している。	教員教育・研究等業績評価規程の徹底を図っている。 <u>今年度から、大学院教員に対しても再審査制度が導入された。</u>	芝浦工業大学教員教育・研究等業績評価規程 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/pdf/evaluation06.pdf 【T35】 工学部教員資格審査委員会審査方法内規
2.3(4)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？	○	教育・研究等業績評価実施状況、教員業績情報システムを介して入力された各種情報は、データ更新の翌日には更新され大学Web（教員データベース http://resea.shibaura-it.ac.jp/ ）で公表される。	開示はされており、変更なし	芝浦工業大学教員データベース http://resea.shibaura-it.ac.jp/
2.3(4)[3]	上記の仕組みに従って教育改善に資する活動が行われていますか？	○	年度末に、達成目標に対する達成度および改善点を『自己評価書』に記述し、学部長を経て学長に提出する。学部長は、各教員の活動計画と自己評価結果を総覧し、特に改善を要する教員に対して、助言を行うとともに必要に応じて個人面談を実施している。本プログラムの教員は全員、3月末に実施される自己評価に参加しており、次年度の教育改善に役立てている。	『自己評価書』に基づく活動が継続して実施されている。	【T36】自己評価書作成依頼書 【T37】自己評価書サンプル

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.4	2.4 入学、学生受け入れ及び異動の方法				
2.4(1)	プログラムの学習・教育到達目標を達成できるように設計されたカリキュラムの履修に必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が定められ、学内外に開示されていること。また、それによって選抜が行われていること。				
2.4(1)[1]	プログラムの学習・教育到達目標を達成できるように設計されたカリキュラムの履修に必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が定められていますか？	○	大学全体、工学部、電気工学科でそれぞれアドミッションポリシーを定めている。これに基づいて一般入試（前期日程等、大学入試センター利用方式）、特別入試（外国人留学生特別選抜、学士・編入学試験）および推薦入試（指定校推薦、併設校推薦）センター利用、 一般入学、全学統一日程、指定校推薦、学士・編入学、外国人特別それぞれについて入学試験 が実施されている。		大学ホームページ アドミッションポリシー http://www.shibaura-it.ac.jp/admission/admission_policy/index.html 電気工学科アドミッションポリシー http://www.ee.shibaura-it.ac.jp/hpb2006/map/admission2.html
2.4(1)[2]	必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が学内外に開示されていますか？	○	一般入学および特別入試、 学士・編入学試験 については要項として学内外に公開されている。推薦入試については該当高校に開示している。		2015年度入試要項 http://www.shibaura-it.ac.jp/admission/pdf/admission_summary.pdf
2.4(1)[3]	必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法に従って選抜が行われていますか？	○	選抜方法については、入学試験の形態、適切な試験科目の配分、指定高校の推薦枠などを入試委員会にて検討の上、教授会にて承認を得て入学試験を実施している。		【T38】2015年度入試について(2014年5月教授会資料)
2.4(2)	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、その具体的方法が定められ、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。また、それによって履修生の決定が行われていること。				
2.4(2)[1]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、その具体的方法が定められていますか？	○	3年次に総合電気工学コース(JABEEコース)と応用電気工学コース(非JABEEコース)に分けている。総合電気工学コースを選択する際に必要となる条件に関しては、取得済み単位数などを具体的に定めている。	2014年度入学生からJABEEコースと非JABEEコースを統合し、すべてJABEEコースとした 予定 。	【T39】電気工学科内規 【J01】電気工学科ガイドブック
2.4(2)[2]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、上記の具体的方法が当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？	○	電気工学科ガイドブックに記載することで、教員及び学生に開示している。	特になし。	【J01】電気工学科ガイドブック
2.4(2)[3]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、上記の具体的方法に従って履修生の決定が行われていますか？	○	2年生終了時にコース振り分けアンケートを実施して、達成度を確認の後、電気工学科にてコース確定の承認を行い決定している。	特になし。	【T40】電気工学科JABEE会議事録 (J1401)
2.4(3)	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、その具体的な方法が定められ、学内外に開示されていること。また、それによって履修生の編入が行われていること。				
2.4(3)[1]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、その具体的な方法が定められていますか？	◎	大学全体として編入学・学士入学の試験方法を定めている。学外で取得した単位認定方法についても工学部教務委員会および電気工学科にて定めている。しかし、マレーシアからの編入生の単位認定に関し、カリキュラムの変更に伴い一部の科目について読み替え方法が明確になっていない。	学外で取得した単位の認定方法について、入学者に不利とならないような読み換えを可能とするよう、見直した。マレーシアからの編入生について、カリキュラムの変更に伴う単位認定方法を明確にする必要がある。電気工学科編入生の受入手順を作成した。	編入学・学士入学試験要項webページ http://www.shibaura-it.ac.jp/admission/transfer_exam.html 【T41】電気工学科JABEE会議事録 (J1404-2) 芝浦工業大学工学部学外単位等認定制度規程 http://www.shibaura-it.ac.jp/campuslife/class/regist.html

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.4(3)[2]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、上記の具体的な方法が学内外に開示されていますか？	○	試験内容を具体的に定めた編入学・学士入学の試験要項を学外に公開している。	一連の手順と実績を整理した。 電気工学科編入生の受入手順を開示予定	編入学・学士入学試験要項webページ http://www.shibaura-it.ac.jp/admission/transfer_exam.html 【T41】電気工学科JABEE会議事録(J1402)
2.4(3)[3]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、上記の具体的な方法に従って履修生の編入が行われていますか？	-	実績がない。	特になし。	
2.4(4)	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、その具体的方法が定められ、関係する教員及び学生に開示されていること。また、それに従って履修生の異動が行われていること。				
2.4(4)[1]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、その具体的方法が定められていますか？	○	転部転科試験要項として定められている。若干名をシステム工学部・デザイン工学部(転部)および工学部内の他学科(転科)から募集している。	特になし。	転部転科試験要項webページ http://www.shibaura-it.ac.jp/campuslife/guide.html
2.4(4)[2]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、上記の具体的方法が関係する教員及び学生に開示されていますか？	○	転部転科試験要項として学内外に公開している。	特になし。	転部転科試験要項webページ http://www.shibaura-it.ac.jp/campuslife/guide.html
2.4(4)[3]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、上記の具体的方法に従って履修生の異動が行われていますか？	○	転部転科試験要項に基づき履修生の異動を実施している。 2014年度は実績なし。2013年度には2年生に1名の転科による異動があった。	特になし。	【T42】電気工学科科学科会議資料(第1301回学科会議事録)
2.5	2.5 教育環境・学生支援				
2.5(1)	プログラムの学習・教育到達目標を達成するために必要な教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩施設及び食堂等の施設、設備が整備されており、それらを維持・運用・更新するために必要な財源確保への取り組みが行われていること。				
2.5(1)[1]	プログラムの学習・教育到達目標を達成するために必要な教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩施設及び食堂等の施設、設備が整備されていますか？	○	大学全体としては、校地面積・校舎面積とも大学設置基準を満たしており、プログラム実施に支障のない教室・実験室が確保・整備されている。PC室については、ほぼ3年に1回の割合でコンピュータの大幅な更新を行っている。図書館では、自習室を完備し、学生による選書ツアーも行っている。学生の休憩場所は、校舎内に適宜準備されている。研究室・実験室については、年1回の割合で整備状況をチェックしている。		【T42】大学敷地面積明細 【T43】工学部のコンピュータ・ルームの施設内容 【T44】豊洲・大宮両キャンパスにおけるアメニティー 【T45】芝浦工業大学 図書館について 【T46】工作センター設備一覧 【T47】工作センター運営方針 【T48】工作センター利用心得 【T49】工作センター運営会議メモ 【T48】工作センター利用心得 【T50】学校建物構造用途別面積明細 【J08】Hello Page 【J09】SIT CAMPUS GUIDE 【T51】FD・設備委員会_設備点検アンケート

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.5(1)[2]	上記の施設、設備を維持・運用・更新するために必要な財源確保への取り組みが行われていますか？	○	大学全体としては、収入の中心である学生生徒等納付金が安定的に確保されているとともに、支出の中心を占める人件費が適正な水準で推移しており、財源が堅調に推移しながら確保されている。大学から学科への予算については、学科在籍学生数が反映された教育経費、教員数が反映された研究用経費、そして各学科一律の設備経費に分かれて安定的に配分されており、学科の施設、設備を維持・運用・更新するための予算が確保されている。		【T52】 財務比率推移 【T53】 消費支出推移 【T54】 科学研究費取得状況 【T55】 外部資金取得状況 【T56】 電気工学科 教育・研究費配分 【T57】 研究教育設備の導入状況 【T58】 電気工学科 外部資金取得状況 【T59】 機械器具備品登録一覧表
2.5(2)	教育環境及び学習支援に関して、授業等での学生の理解を助け、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組みがあり、それが当該プログラムに関わる教員、職員及び学生に開示されていること。また、それに従った活動が行われていること。				
2.5(2)[1]	教育環境及び学習支援に関して、授業等での学生の理解を助け、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組みがありますか？	○	クラス担任により各学年の学生のサポートを行っている。あわせて、工学部学習サポート室を開室し、基礎科目の学習サポートを行っている。図書館では、各種サービスを行う窓口があり、自習室が設けられている。学術情報センター(PC室)では、相談窓口が設置してあり、学生の相談にのる仕組みがある。		【J09】 SIT CAMPUS GUIDE 【J03】 学修の手引 【J01】 電気工学科ガイドブック 工学部学習サポート室ホームページ (http://kyoikukaihatsu.shibaura-it.ac.jp/cgi-bin/downtree/downbbs.cgi?)
2.5(2)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員、職員及び学生に開示されていますか？	○	入学時に、冊子「SIT Campus Guide」「学修の手引」を全員に配付して、図書館利用方法、PC室利用方法、クラス担任制度、科目履修方法、学習サポート室などの周知を行っている。各年度開始時の学科ガイダンスでは、「電気工学科ガイドブック」を配付しており、その中で必要な情報を開示している。あわせて、大学WEBでも同様の内容を公開している。		【J09】 SIT CAMPUS GUIDE 【J03】 学修の手引 【J01】 電気工学科ガイドブック 工学部学習サポート室ホームページ (http://kyoikukaihatsu.shibaura-it.ac.jp/cgi-bin/downtree/downbbs.cgi?)
2.5(2)[3]	上記の仕組みに従った活動が行われていますか？	○	各学年のクラス担任が、必要に応じて定期的に学生との面談を行っている。工学部学習サポート室では、平日の午後に数学、物理学、化学、英語の学習サポートを実施している。図書館、およびPC室のサポートも行っている。そのほか、奨学金支援などのサポートも実施している。		【T60】 クラス担任面談記録 【T61】 学費に関する支援体制について 【T62】 奨学金の推薦・採用者数の推移 工学部学習サポート室ホームページ (http://kyoikukaihatsu.shibaura-it.ac.jp/cgi-bin/downtree/downbbs.cgi?)
3	基準3 学習・教育到達目標の達成				
3(1)	シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目ごとの到達目標に対する達成度が評価されていること。				
3(1)[1]	シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目ごとの到達目標に対する達成度が評価されていますか？	○	シラバスには、科目ごとの達成目標、評価方法と評価基準、対応する学習・教育到達目標が明記されており、それによって評価されている。全てのシラバスは大学ホームページの「芝浦工業大学シラバス検索システム」から参照することができる。「電気実験1～4」や「卒業研究」など筆記試験を行わない科目については、評価シートを設け、達成度を評価している。		【T63】 主要科目試験答案の一部 【T64】 電気実験1～4評価シート 【T65】 卒業研究評価シート 芝浦工業大学シラバス検索システム http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ 【添付資料編】表2

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
3(2)	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関して、その評価方法が定められ、それによって単位認定が行われていること。編入生等が編入前に取得した単位に関して、その評価方法が定められ、それによって単位認定が行われていること。				
3(2)[1]	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関して、その評価方法が定められていますか？	○	「芝浦工業大学工学部学外単位等認定制度規程」により、本学工学部の学生が本学以外の教育機関（大学などの教育機関及び文部科学省が認定した教育施設等）で学外単位等を修得した場合、教育上必要と認めるときは本学の単位として認定を受けることができる制度を定めている。また、電気工学科では「学科外科目の取り扱い表」により認定方法が定められている。	単位認定等に関する学科内での一連の手順を明文化した。	芝浦工業大学工学部学外単位等認定制度規程 http://www.shibaura-it.ac.jp/campuslife/class/regist.html 【T66】 学科外科目の取り扱い表 【T67】 編入受入等の方法及び単位互換の現状 【T68】 学外単位等認定制度規程 【T69】 第0903回工学部教授会資料_編入学生の単位認定 【T70】 第1210回 工学部教授会ver2 【T71】 【専門】 マレーシアプログラム編入単位認定宛依頼 【T72】 単位認定作業のガイドライン_第1404回教務委員会資料1
3(2)[2]	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関する上記の評価方法に従って単位認定が行われていますか？	○	単位認定は工学部教務委員会が行っている。共通科目については共通科目群へ、専門科目群については専門学科へ認定案の作成を依頼し、教務委員会が最終判断を行う。 在学中に取得した学外単位と入学前に取得した学外単位はそれぞれ30単位を上限として本学の単位として認定を受けることができる。ただし、JABEEの認定を受けた「総合電気工学科コース」では実績はない。	2014年度入学生からのコース一本化により今後は対象者が現れると思われる。	
3(2)[3]	編入生等が編入前に取得した単位に関して、その評価方法が定められていますか？	○	編入生についても「芝浦工業大学工学部学外単位等認定制度規程」および「学科外科目の取り扱い表」によって定められている。	単位認定等に関する学科内での一連の手順を明文化した。	芝浦工業大学工学部学外単位等認定制度規程 http://www.shibaura-it.ac.jp/campuslife/class/regist.html 【T66】 学科外科目の取り扱い表 【T67】 編入受入等の方法及び単位互換の現状 【T68】 学外単位等認定制度規程 【T69】 第0903回工学部教授会資料_編入学生の単位認定 【T70】 第1210回 工学部教授会ver2 【T71】 【専門】 マレーシアプログラム編入単位認定宛依頼 【T72】 単位認定作業のガイドライン_第1404回教務委員会資料1
3(2)[4]	編入生等が編入前に取得した単位に関する上記の評価方法に従って単位認定が行われていますか？	○	認定手順も3(2)[2]と同様である。		【T73】 【共通】 編入単位認定宛依頼2013 【T74】 【専門】 編入主任宛依頼2013 【T67】 編入受入等の方法及び単位互換の現状 【T66】 学外単位等認定制度規程 【T69】 第0903回工学部教授会資料_編入学生の単位認定 【T70】 第1210回 工学部教授会ver2 【T66】 学科外科目の取り扱い表 【T71】 【専門】 マレーシアプログラム編入単位認定宛依頼 【T72】 単位認定作業のガイドライン_第1404回教務委員会資料1

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
3(3)	プログラムの各学習・教育到達目標に対する達成度を総合的に評価する方法と評価基準が定められ、それによって評価が行われていること。				
3(3) [1]	プログラムの各学習・教育到達目標に対する達成度を総合的に評価する方法と評価基準が定められていますか？	○	本プログラム履修生一人一人に対して学習・教育到達目標に対する「達成度表」を作成して、目標が総合的に達成できているかを確認し評価できる。学生はS*gsotによって、随時、達成度を自己確認できる。また、プログラムの修了判定条件は「総合電気工学コース内規」に明記されている。		【T12】 JABEE達成表 【T75】 総合電気工学コース内規 芝浦学生応援ツールS*gsot (要ユーザー名)http://sgsot.sic.shibaura-it.ac.jp/ 【T76】 2014年度学修の手引 p2
3(3) [2]	上記の評価方法と評価基準に従って評価が行われていますか？	○	各学習・教育到達目標の評価は、卒業年度末の電気工学科JABEE会議において、学生個々の達成度表をもとに作成した達成度点検シートにより実施されている。		【T21】 電気工学科JABEE会議議事録 【T77】 達成度点検シートの例
3(4)	修了生全員がプログラムのすべての学習・教育到達目標を達成していること。				
3(4) [1]	修了生全員がプログラムのすべての学習・教育到達目標を達成していますか？	○	JABEE会議での評価結果を受けて、上部組織である学科会議において、修了生全員が設定した学習・教育到達目標を達成していることを確認している。		【T22】 電気工学科学科会議議事録
3(5)	修了生はプログラムの学習・教育到達目標を達成することにより、基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけていること。				
3(5) [1]	修了生はプログラムの学習・教育到達目標を達成することにより、基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけていますか？	○	設定した学習・教育到達目標は、表1に示したように基準1(2)の(a)～(i)に対応している。また、学習・教育到達目標は、プログラム設計との対応を容易にするために、大項目だけでなく必要に応じて小項目を設定し、各科目の履修により基準を満たすように工夫している。よって、修了要件に必要な科目を履修し単位を取得することによって基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけたと判定してゐる。		【添付資料編】表1 【添付資料編】表2 【添付資料編】表3 【添付資料編】表4

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
4	基準4 教育改善				
4.1	4.1 教育点検				
4.1(1)	学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果等に基づき、基準1～3に則してプログラムの教育活動を点検する仕組みがあり、それが当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに関する活動が行われていること。				
4.1(1)[1]	学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果等に基づき、基準1～3に則してプログラムの教育活動を点検する仕組みがありますか？	○	電気工学科内組織として学科会議、電気工学科JABEE委員会、教育プログラム実施委員会、カリキュラム委員会、シラバス委員会、FD・設備委員会、電気実験運営委員会があり教育活動を点検している。また、工学部JABEE推進委員会があり、その中で学科の教育活動を点検している。		【T78】 電気工学科JABEE委員会内規 【T23】 電気工学科教育プログラム実施委員会内規 【T24】 電気工学科FD・設備委員会内規 【T25】 電気工学科カリキュラム委員会内規 【T26】 電気工学科シラバス委員会内規 【T79】 工学部JABEE推進委員会規程
4.1(1)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？	○	電気工学科JABEE委員会を核として、それぞれの委員会を統括し、教員に開示している。同委員会の活動内容は、学科会議において報告され、当該プログラムに関わる教員に開示されている。これにより、必要に応じて工学部の教育プログラムに係る部署との連携が可能な体制を維持している。		【T80】 電気工科学科会議議事録
4.1(1)[3]	上記の仕組みに関する活動が行われていますか？	○	各委員会にて内規の見直しおよび年間活動計画を作成が行われ、学科会議および電気工学科JABEE委員会にて報告されている。それによって、少なくとも半期複数回の活発な活動を展開している。活動内容は議事録にまとめられている。		【T81】 電気工学科JABEE会議議事録 【T28】 電気工学科FD・設備委員会議事録 【T27】 電気工学科カリキュラム委員会議事録 【T82】 電気工学科シラバス委員会議事録 【T83】 電気工学科教育プログラム実施委員会議事録 【T84】 工学部JABEE推進委員会議事録
4.1(2)	その仕組みは、社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みを含み、また、仕組み自体の機能も点検できるように構成されていること。				
4.1(2)[1]	教育点検の仕組みは、社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みを含んでいますか？	○	教育プログラム実施委員会にて、クラス担任による学生の要望の反映、父母懇談会やホームカミングデーなどを通じた情報交換の場が設定されている。教育評価アンケートや学生満足度調査により、学生からの要望を吸い上げる仕組みがある。あわせて、例年、求人企業に対するアンケートを実施し、企業からの要望事項についても配慮・分析している。		【T85】 クラス担任面談実施報告書 【T86】 父母懇談会プログラム 【T87】 求人企業アンケート 【T05】 ホームカミングデー案内 【T09】 授業アンケート 【T04】 教育評価アンケート 【T88】 大学点検・評価分科会資料
4.1(2)[2]	教育点検の仕組みは、仕組み自体の機能も点検できるように構成されていますか？	○	工学部教育点検システムとして、学校法人芝浦工業大学評価委員会、工学部JABEE推進委員会が存在し、自己点検・評価、外部評価、第三者評価が実施されている。	前回受審時に、JABEEの仕組み自体を継続的に点検するシステムが不足しているとの指摘を反映して、工学部として自己点検書を毎年確認するフローを追加した。	【T89】 2013年度認証評価対応委員会活動スケジュール 【T90】 第1回大学点検・評価分科会資料 【T91】 2013年度工学部学科等個別自己点検書作成の依頼 【T92】 第2013-1回 JABEE推進委員会議事次第
4.1(3)	その仕組みを構成する会議や委員会等の記録を当該プログラムに関わる教員が閲覧できること。				
4.1(3)[1]	教育点検の仕組みを構成する会議や委員会等の記録を当該プログラムに関わる教員が閲覧できますか？	○	根拠資料に示す委員会の議事録は閲覧が可能である。あわせて、ネットワーク上の学科シェアフォルダを用いて可能な限り議事録を閲覧できるようにしている。		【T93】 シェアフォルダによる議事録閲覧例

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
4.2	4.2 継続的改善				
4.2	教育点検の結果に基づき、プログラムの教育活動を継続的に改善する仕組みがあり、それに関する活動が行われていること。				
4.2[1]	教育点検の結果に基づき、プログラムの教育活動を継続的に改善する仕組みがありますか？	○	電気工学科JABEE委員会を核として継続的な改善活動を実施している。毎年度、工学部に自己点検書を提出し、工学部からの各学科・科目へのフィードバックを通じて、改善活動を継続的に改善する仕組みがある。		【T78】 電気工学科JABEE委員会内規 【T24】 電気工学科FD・設備委員会内規 【T25】 電気工学科カリキュラム委員会内規 【T26】 電気工学科シラバス委員会内規 【T23】 電気工学科教育プログラム実施委員会内規 【T94】 2014年度工学部自己点検書作成の依頼
4.2[2]	上記の仕組みに関する活動が行われていますか？	○	定期的な会合が開催され、議事録として活動記録が残されている。		【T78】 電気工学科JABEE委員会内規 【T24】 電気工学科FD・設備委員会内規 【T25】 電気工学科カリキュラム委員会内規 【T26】 電気工学科シラバス委員会内規 【T23】 電気工学科教育プログラム実施委員会内規